

『教学之源流』によせて

京都産業大学 学長

京都産業大学は一九六五年、学祖荒木俊馬博士によって創設された。その当時の国内情勢は不安定であり、大学においても政治運動が大学紛争へと拡大し、教育が憂慮される状況であった。その中で本学は「建学の精神」を根本理念として、自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材を育成することを目的として創設された。学祖による「建学の精神」は、その後も歴代の学長により力強く受け継がれ現在に至っている。

この『教学之源流』には、開学式、入学式、卒業式で学生に語りかけた学祖の生の声が収められている。その言葉の中には、「建学の精神」の核心となる教えが随所に明示されている。臨場感にあふれた精魂込めた言葉の迫力に、本学創設にかける強い熱い思いを感じ取ることができよう。

混迷の時代の今日において、京都産業大学がこれから進むべき道を考える指針として、本学関係者が「建学の精神」を理解し、この『教学之源流』に込められた学祖の思いを我がものとすることは極めて重要である。

本学に学び、学問を究める学生諸君には『教学之源流』を熟読し、大学創設以来、先人が築き上げてきた営みを知り、新たな未来に向かって挑戦する気概を持っていただきたい。